

春の江戸絵画まつり 江戸絵画お絵かき教室

府中市美術館 23.03.11~05.07 前期 03.11~04.09 後期 04.11~05.07



府中市美術館恒例の「春の江戸絵画まつり」は、今回で20回目を迎えるが、これまではさまざまな切り口で江戸時代の絵画が紹介されてきた。

これまでの「展覧会」は、いずれも「美術史」の視点から作品を眺めるイベントであったが、本展は「描く」ということに着目した初めての試みで、画材や技法の基礎知識から描き方のコツまで、さまざまな側面から江戸絵画の「描く」に迫る企画としての開催である。

1. 四大テーマに挑戦 江戸絵画を見て、実際に描いてみよう！

かわいい子犬の絵、綺麗な牡丹の絵、深遠な趣の山水画・・・江戸時代の絵画には、現代の我々が見ても面白い絵がたくさんある。現代の画材を使用してそれらの絵画に塗り絵などで挑戦して見よう。

2. 画材・技法・表具 知っているようで知らない、江戸絵画の常識

江戸絵画の画材と江戸絵画に多く見られる技法である「伊藤若冲」の作品で知られる「筋目描き」の徹底解説や、絵画を彩る絵具や墨、筆、紙、絹などの画材とその使い方。さらに、一幅の掛軸の表具を付け替える過程を紹介。

3. 江戸時代の絵画はどう学んだのか？ 真似る 素晴らしいスタイル

「正確なデッサン」を基本とする西洋絵画とは異なり、江戸時代の絵画の習得方法に共通の基本はなく、主流は素晴らしい絵を真似ることで、中国絵画から「雪舟」「応挙」などの多様な絵を手本として学んだ。

4. 江戸絵画はヒントの宝庫 モチーフから構図、色の選び方まで

描くことは楽しいし挑戦して見たいが、何を描けばわからない人にとっては、江戸絵画はお絵かきの自由な方向へと導いてくれる最良テキストである。



円山応挙《狗子図屏風》(部分)



長沢蘆雪《唐子遊図屏風》(部分)